

# 力学II（後半：原田担当分）

## 第13回

# 今回の内容 (p.120-127)

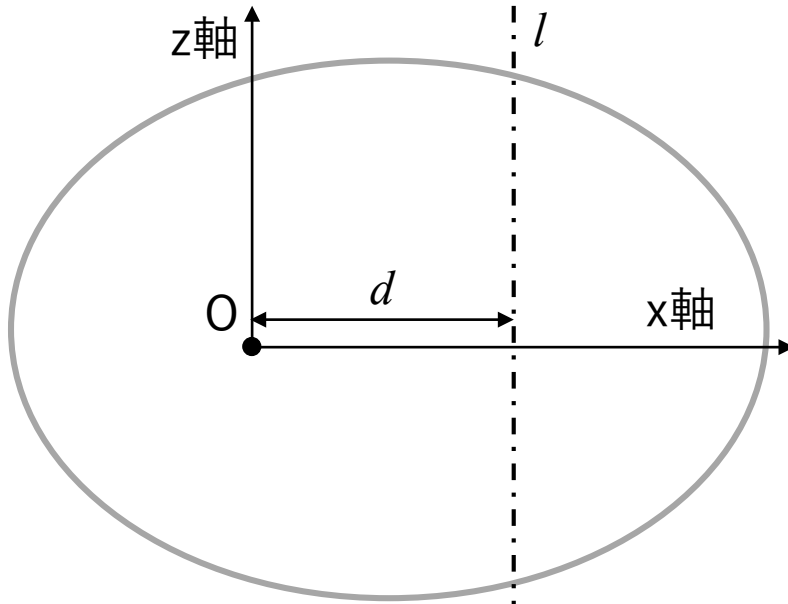
## 慣性モーメント : 回転しにくさ

- ・ 慣性モーメントの性質
- ・ 慣性モーメントの計算 (例題)

## 剛体の力学的エネルギー

- ・ 重力のポテンシャル
- ・ 運動エネルギー
- ・ 力学的エネルギー保存則

# 慣性モーメントの性質



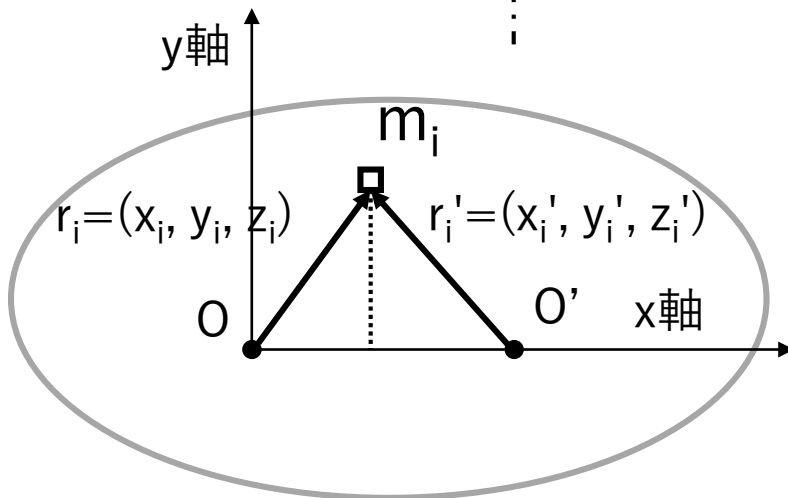
剛体の質量： $M$

剛体の重心： $O$

$z$ 軸回りの慣性モーメント： $I_0$

$l$ 回りの慣性モーメント： $I$

$$I = I_0 + Md^2$$



z軸の周りの慣性モーメント $I_0$ は、

$$I_0 = \sum_i m_i \rho_i^2$$

z軸に平行な直線 $l$ 回りの慣性モーメントは

$$I = \sum_i m_i \rho_i'^2$$

ここで、

$$\rho_i^2 - x_i^2 = \rho_i'^2 - (d - x_i)^2$$

$$\Leftrightarrow \rho_i'^2 = \rho_i^2 - 2dx_i + d^2$$

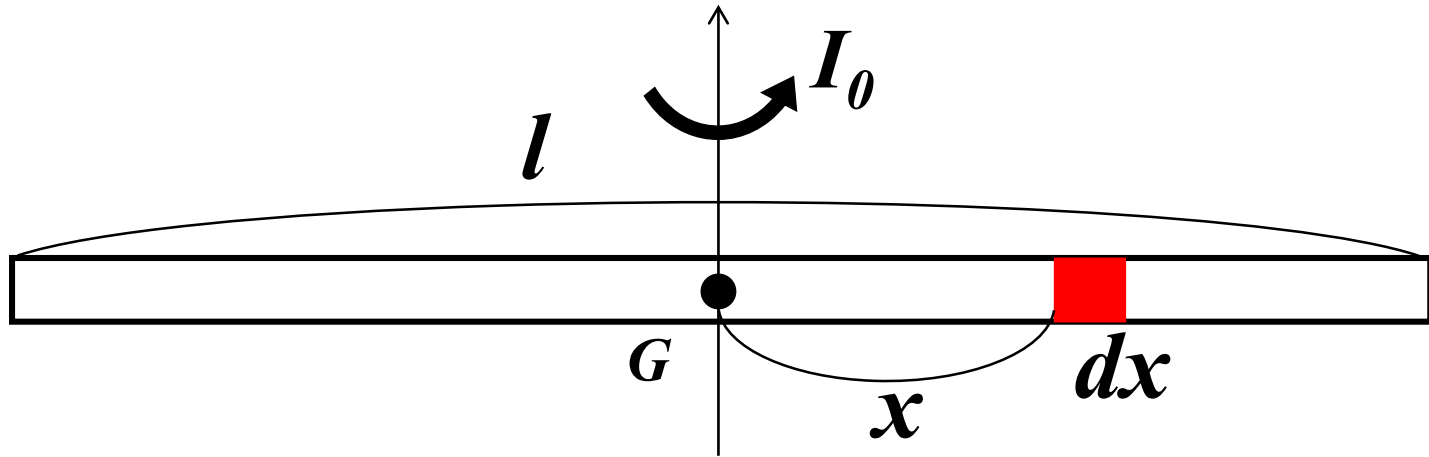
よって、

$$\begin{aligned} I &= \sum_i m_i (\rho_i^2 - 2dx_i + d^2) \\ &= I_0 - 2d \sum_i m_i x_i + Md^2 \end{aligned}$$

ここで、原点0が重心であることに注意すると、

$$\sum_i m_i x_i = 0 \quad \text{であり、}$$
$$I = I_0 + Md^2$$

# 例 1：細い一様な棒



線密度  $\sigma$ 、質量  $M$  の長さ  $l$  の棒の  
重心を通り、棒に垂直な軸に関する  
慣性モーメント  $I_0$  を求めよ。

距離  $x$  にある微小部分  $dx$  の質量  $dm$ は、

$$dm = \sigma dx$$

微小部分  $dx$  の回転軸周りの慣性モーメントは、

$$dm \cdot x^2 = \sigma x^2 dx$$

よって、慣性モーメントは、

$$I_0 = \int_{-\frac{l}{2}}^{\frac{l}{2}} \sigma x^2 dx = \sigma \left[ \frac{x^3}{3} \right]_{-\frac{l}{2}}^{\frac{l}{2}} = \sigma \left( \frac{l^3}{24} + \frac{l^3}{24} \right) = \frac{\sigma}{12} l^3$$

$$M = l\sigma \text{ より、} \quad \therefore I_0 = \frac{\sigma}{12} l^3 = \frac{M}{12l} l^3 = \frac{1}{12} M l^2$$

長さ  $l$  の棒の重心を通り  
棒に垂直な軸に関する慣性モーメントは、

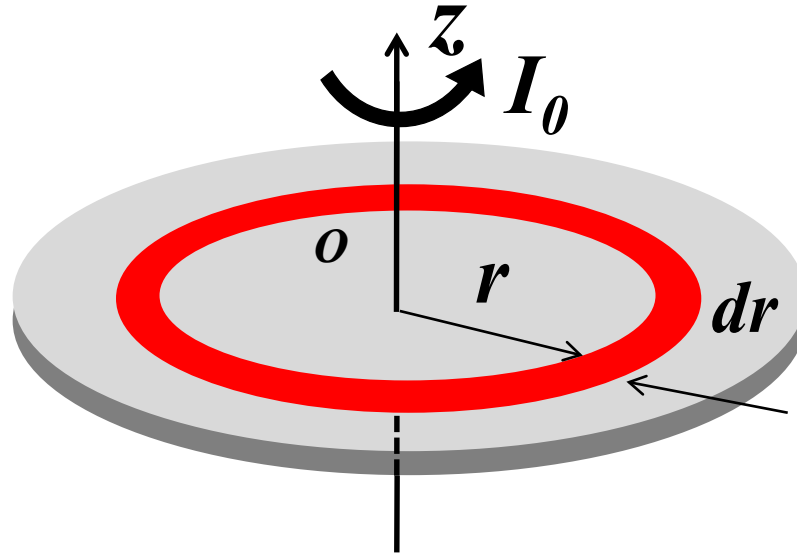
$$I_0 = \frac{1}{12} M l^2$$

よって、上記の軸と平行で重心から距離  $l/2$  離れた  
棒の端点を通る軸に関する慣性モーメントは、

$$I = I_0 + M \left( \frac{l}{2} \right)^2 = \frac{M l^2}{12} + \frac{M l^2}{4} = \frac{1+3}{12} M l^2 = \frac{1}{3} M l^2$$



## 例 2 : 一様な円板



面密度  $\sigma$ 、質量  $M$  の半径  $a$  の円板の重心を通り、円板に垂直な軸に関する慣性モーメント  $I_0$  を求めよ。

距離  $r$  にある微小部分  $dr$  の質量  $dm$ は、

$$dm = \sigma \cdot 2\pi r dr$$

微小部分  $dr$  の回転軸周りの慣性モーメントは、

$$dm \cdot r^2 = 2\pi\sigma r^3 dx$$

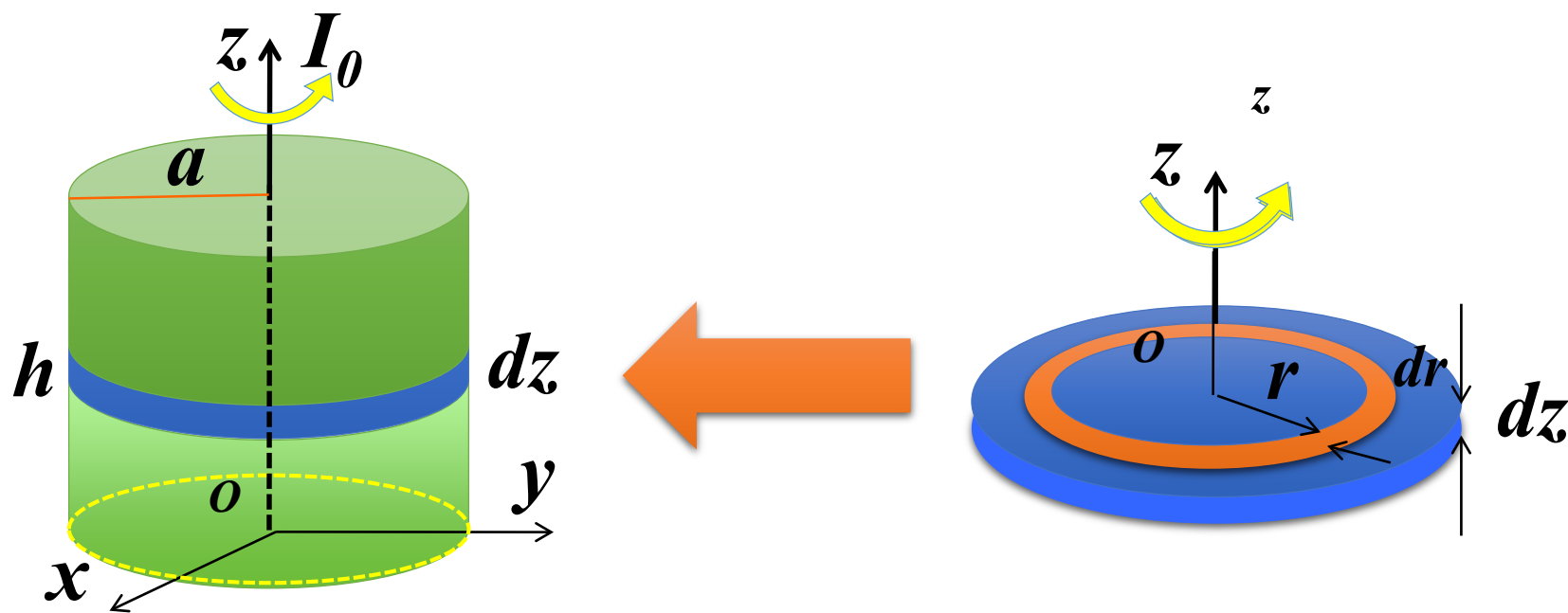
よって、慣性モーメントは、

$$I_0 = \int_0^a 2\pi\sigma r^3 dr = 2\pi\sigma \left[ \frac{r^4}{4} \right]_0^a = \frac{\pi\sigma}{2} a^4$$

$$M = \pi a^2 \sigma \text{ より、}$$

$$\therefore I_0 = \frac{\pi\sigma}{2} a^4 = \frac{\pi}{2} \frac{M}{\pi a^2} a^4 = \frac{1}{2} M a^2$$

# 例 3 : 一様な円筒



密度  $\rho$ 、質量  $M$  の半径  $a$ 、高さ  $h$  の円筒の重心を通り、円筒に垂直な軸に関する慣性モーメント  $I_0$  を求めよ。

$z$  軸から距離  $r$  にある厚さ  $dz$  の微小部分  $dr$  の質量  $dm$ 、円柱の密度を  $\rho$  とする。

$$dm = \rho \cdot 2\pi r dr dz$$

微小部分  $dr$  の  $z$  軸周りの慣性モーメントは、

$$dm \cdot r^2 = 2\pi\rho r^3 dr dz$$

よって一様な円柱の  $z$  軸に関する慣性モーメントは、

$$\begin{aligned} I_0 &= \int dm \cdot r^2 = \int_0^a 2\pi\rho r^3 dr \int_0^h dz = 2\pi\rho \int_0^a r^3 dr \int_0^h dz \\ &= 2\pi\rho \left[ \frac{r^4}{4} \right]_0^a [z]_0^h = 2\pi\rho \frac{a^4}{4} h = \frac{\pi\rho a^4 h}{2} \end{aligned}$$

$$M = \pi a^2 h \rho \quad \text{より、} \quad \therefore I_0 = \frac{\pi\rho a^4 h}{2} = \frac{\pi a^4 h}{2} \frac{M}{\pi a^2 h} = \frac{1}{2} M a^2$$

# 剛体の力学的エネルギー

$$M = \sum_i m_i$$

$$M\mathbf{r}_G = \sum_i m_i \mathbf{r}_i$$

重力のポテンシャルU

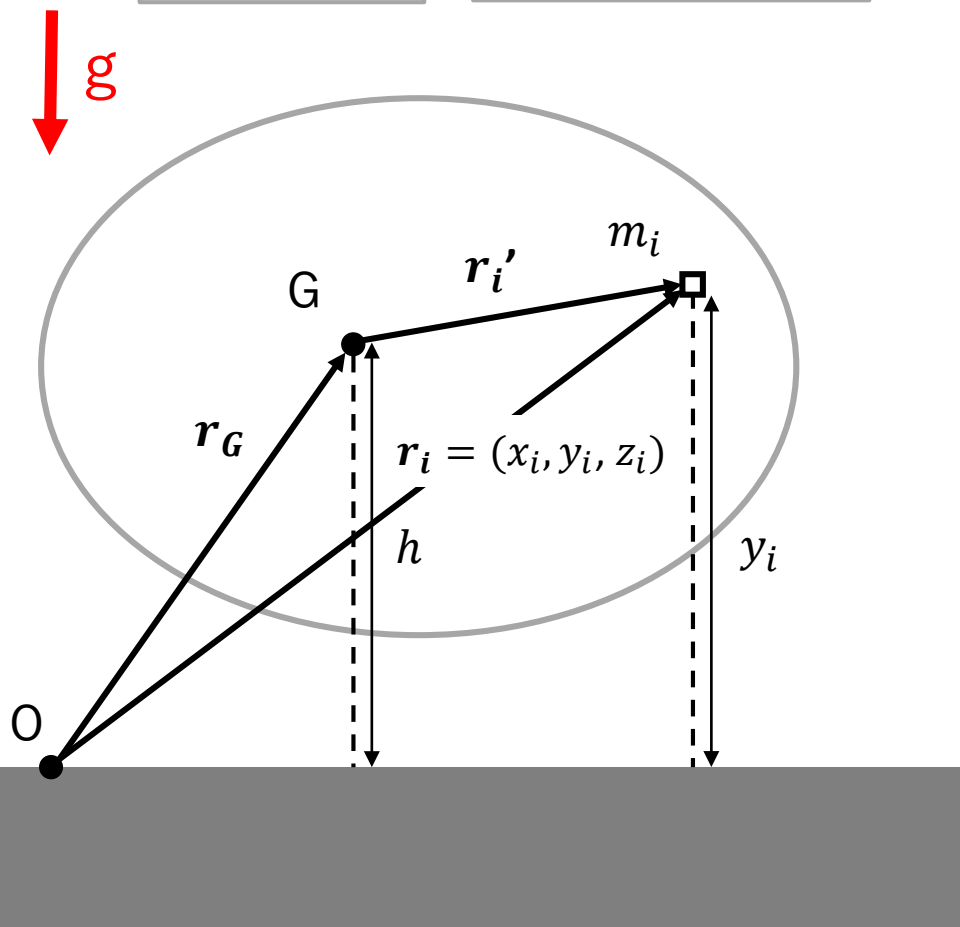
$$U = \sum_i m_i g y_i$$

重心の式より

$$Mh = \sum_i m_i y_i$$

なので、

$$U = Mgh$$



## 運動エネルギーK

$$K = \frac{1}{2} \sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i^2$$

ここで、

$$\mathbf{r}_i = \mathbf{r}_G + \mathbf{r}_i', \quad \dot{\mathbf{r}}_i = \dot{\mathbf{r}}_G + \dot{\mathbf{r}}_i'$$

であるから、

$$K = \frac{1}{2} \sum_i m_i (\dot{\mathbf{r}}_G^2 + 2\dot{\mathbf{r}}_G \cdot \dot{\mathbf{r}}_i' + \dot{\mathbf{r}}_i'^2)$$

ここで、

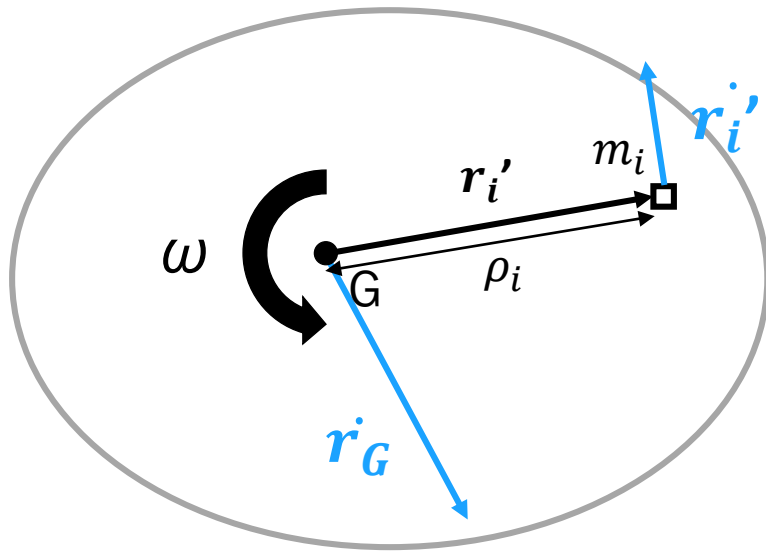
$$\sum_i m_i \mathbf{r}_i' = 0, \quad \sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i' = 0$$

に注意して、式を整理すると、

$$K = \frac{1}{2} M \dot{\mathbf{r}}_G^2 + \frac{1}{2} \sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i'^2$$

重心の運動エネルギー    重心のまわりの剛体の  
運動エネルギー

重心のまわりの運動が固定軸の回転運動の場合、



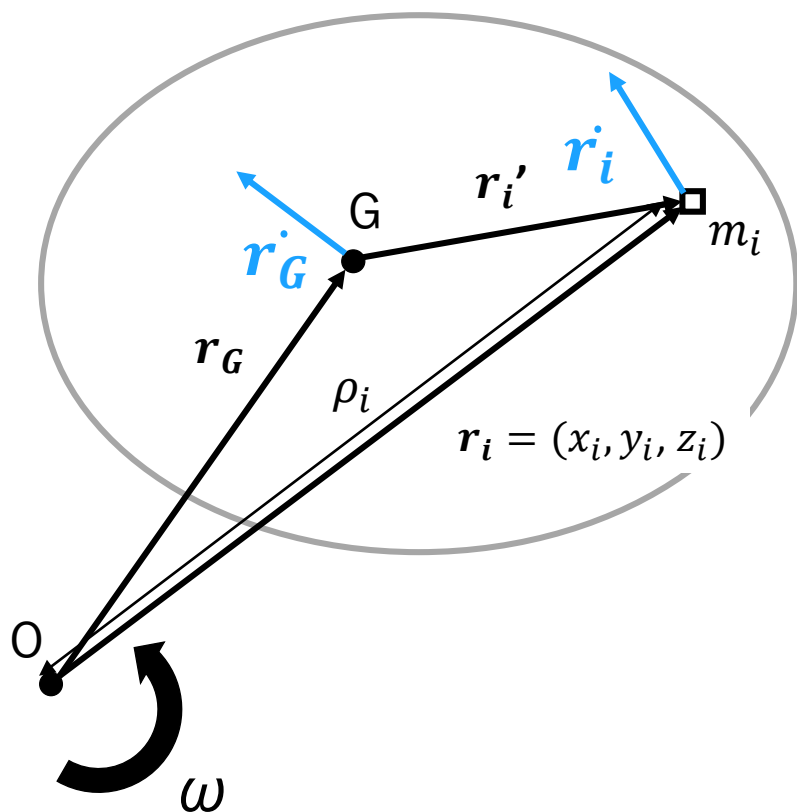
$$|\dot{\mathbf{r}}_i'| = \rho_i \omega$$

であるので、

$$\begin{aligned} K &= \frac{1}{2} M \dot{\mathbf{r}}_G^2 + \frac{1}{2} \omega^2 \sum_i m_i \rho_i^2 \\ &= \frac{1}{2} M \dot{\mathbf{r}}_G^2 + \frac{1}{2} I_0 \omega^2 \end{aligned}$$

原点の周りの運動を考えて、慣性モーメントに関する平行軸の定理を用いても同様の式が得られる。

$$I = I_0 + M|\mathbf{r}_G|^2$$



$$\begin{aligned} K &= \sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i^2 \\ &= \frac{1}{2} \omega^2 \sum_i m_i \rho_i^2 = \frac{1}{2} I \omega^2 \\ &= \frac{1}{2} I_0 \omega^2 + \frac{1}{2} M |\mathbf{r}_G|^2 \omega^2 \\ &= \frac{1}{2} I_0 \omega^2 + \frac{1}{2} M \dot{\mathbf{r}}_G^2 \end{aligned}$$



# 剛体の力学的エネルギー保存則

剛体では内力のポテンシャルは考えなくてよい。  
外力のポテンシャルを $U(\mathbf{r}_1, \mathbf{r}_2, \dots, \mathbf{r}_n)$ とすると、  
微小体積 $i$ の運動方程式は、

$$m_i \ddot{\mathbf{r}}_i = -\nabla_i U = -\frac{\partial U}{\partial \mathbf{r}_i} = \left( -\frac{\partial U}{\partial x_i}, -\frac{\partial U}{\partial y_i}, -\frac{\partial U}{\partial z_i} \right)$$

両辺に $\dot{\mathbf{r}}_i$ を内積でかけて、和をとると

$$\sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i \cdot \ddot{\mathbf{r}}_i = -\sum_i \dot{\mathbf{r}}_i \cdot \nabla_i U$$

ここで、

$$\dot{\mathbf{r}}_i \cdot \ddot{\mathbf{r}}_i = \frac{1}{2} \frac{d}{dt} (\dot{\mathbf{r}}_i^2) \quad \frac{dU}{dt} = \sum_i \nabla_i U \cdot \dot{\mathbf{r}}_i$$

に注意すると、

$$\Leftrightarrow \frac{d}{dt} \left( \frac{1}{2} \sum_i m_i \dot{\mathbf{r}}_i^2 + U \right) = 0$$

$$\Leftrightarrow \frac{d}{dt} (K + U) = 0$$

$$\Leftrightarrow K + U = E(\text{一定})$$

であり、エネルギー保存則が成り立つ。